TOPIC 04

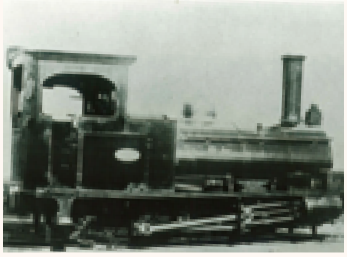
進取のDNA

当社は創業以来、時代の変化に応じて新たな価値を生み出す挑戦を続けてきました。1885（明治18）年の開業から今日に至るまで、当社には「進取のDNA」が息づいており、鉄道事業にとどまらず、様々な分野で新規事業を展開してきました。ここでは、当社が歩んできた挑戦の歴史を振り返ります。

1900

1885

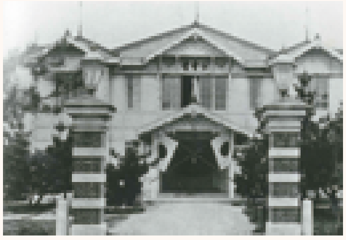
前身の阪堺鉄道が純民間資本としては日本で初めて鉄道を走らせる



1905

浜寺公園内に食堂と浜寺公会堂が開業

浜寺公園の遊覧客増加を受け、園内の土地を借地して園遊場を設け、直営の食堂を開業。



1906

浜寺海水浴場を開設

メリーゴーラウンドなどの遊戯施設、ブランコやウォータースライダーなども設置。

食堂車（ビュッフェ）の登場

一等車の半分を食堂に充て、西洋料理と和洋料理を提供した。取締役直々の面接試験による採用女性は「教養ある洋装美人」として、乗客の評判を集めた。

1994

斬新なフォルムの「空港特急ラピート」を運行開始

1908

淡輪遊園内で「汽車ホテル」を始める

1911

「南海食堂」の開業

難波駅待合所2階に西洋料理と和洋飲物の営業開始。

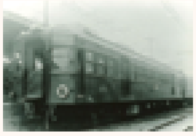
1912

大浜汐湯の建設（阪堺電気軌道）

海水を使った大規模温浴施設を開業。

1936

日本初の冷房車の導入

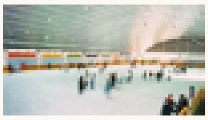


ご乗客には好評で、冷房車にだけ大勢の人が集中したため、人の熱気でかえって他の車両より暑かった、という話も残っている。

1950

南海ホークスの本拠地となる大阪球場を建設

アイススケート場やボウリング場なども併設した。



1999

新規事業提案制度（ABC^2制度）を創設

新しいビジネスチャンスを発掘するために社内で創設。当社の事業を有効に活用する「新規業態型」、当社がこれまで携わってこなかった事業への参画を提案する「新規事業型」で募集開始。

2000 2025

2003
「社内ベンチャー制度」を導入

大阪市内では珍しい庭園を備えた
「なんばパークス」オープン

2005
南海ロケーションサービス開始

葬祭事業への参入
（南海グリーフサポートの設立）

2007
ペット葬祭事業を開始

大手私鉄グループとしては初めて参入。ペットの個別葬儀や火葬、納骨などのサービスを提供する事業所「フローラペットセレモニー」を大阪狭山市にオープン。

2019
新規事業部発足 ［詳細はp.102参照］

新規事業開発プログラム
（現：事業創出支援プログラム）開始

2020
傘のシェアリングサービス
「チョイカサ」サービス開始

「雨」という不便なシーンを快適に過ごしてもらうための「傘」のシェアリングサービス。

2021
IT/CADエンジニアに特化した
海外人財紹介・定着支援サービス
「Japal」事業開始
［詳細はp.105参照］

大手鉄道事業者として初となる
改札機でのクレジットカードに
よるタッチ決済導入
［詳細はp.73-74参照］

テニスプレイヤー向けサービスを
展開する「株式会社LAWN」設立

テニススクール専用会員管理アプリ「ハイタッチ」、テニスプレイヤー専用のwebプラットフォーム「テニスグ！」などを運営。

感情共有サービスを展開する
「株式会社EMOSHARE」設立

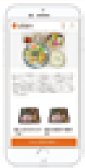
コンテンツに触れながら、同じ趣味・趣向の人と双方向かつリアルタイムに交流できる感情共有プラットフォームサービス。

音楽関連サービスを展開する
「株式会社Everybuddy」設立

バンドメンバーマッチングサービスやオリジナルCMソング一般募集、1,000人同時演奏イベント「千のRockYou!!」を運営。

“駅でごはんをピック
アップ”「エキピク」
実証実験開始

お客さまの生活動線上で、食事を受け取ることができるサービス。



2022
趣味サポートサービス
「カムバス」実証実験開始

競技レベル・年齢・性別などにかかわらず、誰でも参加しやすいオープンスポーツコミュニティを展開。

eスポーツ事業を推進する
「eスタジアム株式会社」設立
［詳細はp.103参照］

社外人財を対象とした
事業創出支援プログラム
「beyond the Border」を開始

イノベーション創出を志す熱い想いを持った社外の方々からアイデアを募り、当社とともに新たな事業の創出を目指すプログラム。［詳細はp.102-103参照］

2023
係員付き自動運転「GOA2.5」
実証実験 ［詳細はp.63参照］

飲食関連プロジェクト
「一生一食」実証実験開始

「一生食べられないかもしれない至極の一食」をコンセプトに、「食」を新たな切り口として、なかなか食べに行けない遠方有名店の逸品を、手軽に食べられる試みを展開。

2025
SNSでの医療人材
マッチング事業を展開する
「株式会社メドエックス」設立

病院の求人情報や職場環境、従業員の雰囲気などが分かるオリジナル動画を制作し、「MEDICH」の専用SNSに掲載することで、病院と求職者をマッチングさせる採用サービス。

ヘルシーファストフード事業を
展開する「株式会社yuppa」設立

「忙しいときでも健康的かつ楽しみながら食べられる、京生湯葉を使ったワンハンド型のファストフード」を提供。

Ⅲ　事業戦略

コロナ禍を経て、インバウンド需要の変動に左右されにくい収益基盤の確立と、長期的な人口減少への対応は、次の成長に向けた重要な経営課題であった。これらに対処するため、既存の鉄道・不動産事業に続く、新たな「第３の柱」の開拓を検討。成長が期待できる事業の発掘・育成に挑戦することとなった。

新規事業への取り組み

事業創出支援プログラム（旧新規事業開発プログラム）

当社のイノベーション創出における挑戦を「Fly beyond」と総称し、その取り組みの１つとして、従業員の挑戦を促進して新事業創出を目指す「事業創出支援プログラム」１期を2019（令和元）年に開始。外部講師（メンター）と協力しながら、社内公募で選ばれたチームが４つの事業案（傘のシェアリング、音楽活動トータル支援、テニスプレイヤープラットフォーム、サブカルチャー関連）について検討し、同年12月から順次実証実験を実施した。

2021年５月には、同プログラムから生まれた事業を推進する３法人として株式会社LAWN（ローン）、株式会社EMOSHARE（エモシェア）、株式会社EveryBuddy（エブリバディ）を設立し、事業提案者が代表に就任。事業は経済産業省の「大企業人材等新規事業創造支援事業費補助金」（出向起業等創出支援事業）にも２年連続で採択された。

株式会社LAWN

株式会社EMOSHARE

株式会社EveryBuddy

法人として約3年間の活動を経て、EMOSHAREは株式会社未来創造社に株式および事業を譲渡、EveryBuddyの事業は当社が承継することとなったが、「事業創造を通じたイノベーション人財の育成・風土の醸成」という所期の目的を果たすことができた。

「EveryBuddy」承継イベント「千の RockYou !! 2024」

社外人財を対象にした「beyond the Border」

2022（令和４）年、経済産業省の「客員起業家（EIR）の活用に係る実証事業」に採択されたことを受けて、当社は社外人財を対象としたコース「beyond the Border」を開始した。募集および選考により決定した社外からの参加者は、約１年間の事業創出支援プログラムに参加し、最終審査通過者は当社と雇用契約を結んで新事業に取り組むことができるもので、第１期は50件、翌年の第２期は70件の応募があった。

第1期での採択はなかったものの、第2期では最終ステージに残った事業案について、2024年12月に事業審査会を行い、SNSでの医療人材マッチング事業「MEDICH（メディッチ）」とヘルシーファストフード事業「yuppa（ユッパ）」の2事業案の採択を決定した。2事業案の推進者は、2025年3月1日付で当社に入社した後、同年4月に設立した2法人（株式会社メドエックス、株式会社yuppa）に出向、それぞれ代表取締役に就任し、事業を開始した。

株式会社メドエックス　株式会社yuppa

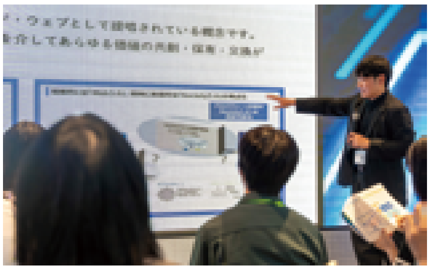
eスポーツ事業への参入

「eスタジアムなんば」の開設

2021（令和3）年7月、エンターフォース株式会社、ウェルプレイド・ライゼスト株式会社（現：GLOE株式会社）と業務提携して、「なんばスカイオ」にeスポーツ体験型ショールーム「eスタジアムなんば Powered by NANKAI」を開設した。同施設は、ユーザーが専門スタッフのサポートを受けながら、専用機材を無料で用いてオンラインでの配信を行えるほか、企業によるイベントを手軽に実施できる。開業時には「第1回関西eスポーツ学生選手権2021」の決勝トーナメントを開催。16校・12チームが出場し、同施設からその模様を配信した。

2022年4月28日には、eスタジアム株式会社を設立。さらに同年6月には当社のイノベーション創造室内にeスポーツ事業部を設置した。eスタジアムはeスポーツに関する「施設運営事業」「大会イベント事業」の運営を事業の柱とし、プレイヤーファーストの精神のもと、業界課題の解決と市場の拡大を目指すこととした。

2023年からは「なんばエリア」において、エンターテインメントの力で多彩なステークホルダーとの共創・まちの魅力づくりを実現する「ENTAME-DIVER-CITY」を目指した取り組みを進めることとし、2024年8月1日には、「なんばパークス」に「eスタジアムなんば本店」がグランドオープンした。同店は、eスタジアムが全国で運営する9拠点（5拠点およびパートナー店舗4拠点）の中核として、従来からあるeスポーツ体験のほか、地域コミュニティの形成や子どものデジタルリテラシー教育（Web3.0教育）にも活用できる場として運営している。


デジタルリテラシー教育（Web3.0教育）

「eスタジアムなんば本店」オープニングセレモニー

「eスポーツ先進都市・泉佐野」を目指す取り組み

泉佐野市は、eスポーツを地域活性化の鍵と位置付け、2022年4月に「eスポーツMICEコンテンツ実証事業」を開始。事業受託者を決定するプロポーザルが行われ、同年6月14日に、当社、eスタジアム、南海国際旅行、ウェルプレイド・ライゼストの4社による共同提案が採択された。

同年8月には、高校生を対象にした合宿「eスポーツキャンプ」を初めて開催。全国から高校生44人が参加し、専属コーチによる指導のもと、シューティングゲーム「VALORANT」の大会を実施した。その後、2023年8月には第2回のeスポーツキャンプを開催した。

さらに、2022年11月28日には同実証事業の一環として、同市の複合商業施設「りんくうパピリオ」内に「eスタジアム泉佐野」を開業。eスポーツプレイヤーの活躍を地域とともに支援する施設を目指している。

eスポーツキャンプ

eスタジアム泉佐野

VALORANT公式大会への参画

2023年3月18・19日にインテックス大阪で開催された合同会社ライアットゲームズ主催「VALORANT Challengers Japan 2023 Split1 —Playoff Finals」において、当社は関西特別パートナーに就任した。同大会は世界で有名なタクティカルFPSゲーム「VALORANT」の国内最大級の公式大会であり、大阪でオフライン開催されるのは初めてであった。eスポーツ業界における大阪の存在感を高めるとともに、国内外からお客さまが多く来阪する機会を創出し、先着チケットは約4分で完売した。

同年6月3・4日には「Split2」の決勝を、なんばエリアに所在するエディオンアリーナ大阪で開催するに伴い、関西特別パートナーとして、「なんばeスポーツウィーク」（大会公式グッズの販売やイベントの開催、地元商店街での大会公式ポスターの掲出など）を通じて、なんばエリア全体で大会を盛り上げた。

なんばeスポーツウィーク

eスポーツを通じた社会課題の解決

2023年3月9日に当社は、公益財団法人 科学技術融合振興財団から「FOST社会貢献賞」を受賞した。「eスタジアム」の運営や、泉佐野市との「eスポーツキャンプ」、神戸大学大学院との「依存症防止のためのメンタルヘルスケアセミナー」といった活動を通じて、プレイヤーファーストを掲げて継続して学生に寄り添い、依存症対策を講じる一方、啓発活動を通じて親世代への理解促進に取り組んだことが評価された。

こうした青少年の健全育成と地方創生への取り組みは継続して実施している。

2024年にはeスタジアムなんば本店がeスポーツ施設としては国内で初めて義務教育課程における出席認定制度対象施設に選定された。不登校を経験した生徒を対象とした「学びの多様化学校」である大阪市立心和中学校との共同施策として、同施設が子どもたち一人ひとりの居場所となり将来の可能性の幅を広げることができる環境となるよう取り組んでいる。

また、和歌山県における取り組みとして、eスタジアムとともに2024年7月から、部活動としてeスポーツに取り組む県立高等学校のモデル校（5校）において、外部指導者によるeスポーツのコーチング（指導など）プロジェクトを実施。2025年1月25日、2月2日の両日には、同プロジェクトの集大成として、和歌山県内のすべての高校生を対象とした「和歌山県高校eスポーツ選手権2025」を開催。若者を中心とした新たな地域文化の形成と地域活性化を目指した。

「FOST社会貢献賞」を受賞

IT・CAD人財に特化した海外人財紹介・定着支援サービス「Japal」

コロナ禍によるデジタル化の加速により、多くの企業では会社規模や業態を問わずDX推進やIoT化への対応が急務となっていた。そこで、南海不動産では2021（令和3）年3月から日本の社会課題となっているIT人材不足の問題を解決することを目的に、ネパールのIT・CAD人材に無償で日本語・日本文化教育を提供のうえ、有料職業紹介を行う新規事業「Japal（ジャパール）」を開始した。

さらに当社は、“2050年の企業像”において「沿線への誇りを礎に、関西にダイバーシティを築く事業家集団」を掲げており、外国人が暮らしやすい地域づくりや共生の実現に取り組んでいることから、2022年11月1日に南海不動産から同事業を承継した。この事業承継によって、当社のブランド力やネットワークなど多様なリソースの活用が可能となり、Japalの理念をより広く展開できるようになった。今後はグループ全体のシナジーを生かしながら事業の成長を図るとともに、「DiverCity（多様性あふれる街）」の実現に向けて「ダイバーシティプラットフォーム」となることを目指している。

2023年4月からは「Japal交流会」を定期的に開催。ネパール出身のIT人財、Japal人財受け入れ企業、受け入れ検討企業が集まり、ネパール人財の活躍推進に向けて課題や解決策の共有、ネットワーク構築などを支援している。

第2回Japal交流会

「Japal」

その他

南海国際旅行

出張手配システム「BTOL」

南海国際旅行は、2016（平成28）年10月1日から、法人向け出張手配業務の効率化を目的とした出張管理システム「BTOL（ビートル）」の提供を開始した。本システムは、国内交通機関および宿泊施設の手配から精算業務までを一元管理することで、業務プロセスの簡素化と間接コストの削減を実現し、企業の管理部門における業務負担の軽減につながる。

2017年には海外航空券のメールオーダー機能を新たに搭載し、海外出張への対応力を強化。その後、JR東海・JR東日本との連携によって、BTOLで全国の新幹線のオンライン予約・チケットレス乗車ができるようになり、国内出張手配におけるユーザーの利便性と操作性が大幅に向上した。

南海グリーフサポート

泉北エリア初出店となる「ティア泉北光明池」をオープン

大阪・和歌山エリアを中心に葬儀会館ティアを展開する南海グリーフサポートは、地域密着型のドミナント出店戦略に基づき、店舗数を拡大してきた。2017（平成29）年には「深展133計画」の基本方針の1つである「泉北関連事業の強化」の一環として、泉北エリア初出店となるティア泉北光明池、2020（令和2）年にはティア堺伏尾を出店した。ティア泉北光明池については、ホールに設置した可動式間仕切りによってスペースの変更が可能で、葬儀の規模に応じて最適な空間が提供できる。

その後は、既存会館があるエリアにおけるドミナント強化を進め、2021年にティア羽曳野、2023年にティア富田林駅前がオープン。2024年4月現在は17会館を運営している。

中の島

「ホテル中の島」を改称しリブランドオープン

「ホテル中の島」は、2018（平成30）年12月1日に全館閉館して営業を一時休止した。閉館後は耐震改修工事と新館建設工事を行い、2019年4月19日に「碧き島の宿 熊野別邸 中の島」としてリブランドオープンした。

中の島は、他に類を見ない一島一旅館というロケーションの特長を受け継ぎながら、新館「凪の抄」のデビューを機に高級和風リゾートとしてさらなるグレードアップを図った。

新館「凪の抄」